

～ 豊かな学びの実現 ～

## 西条市応急手当競技大会に参加 ～保健委員選抜女子チーム優勝～

### 西条の高校生 応急処置競う

心臓マッサージやAED

西条市の高校生が応急手当での技術や知識を競う大会が8日、同市神拝の市総合福祉センターであった。高校生が3人一組のチームになり、胸骨圧迫(心臓マッサージ)や自動体外式除細動器(AED)の使用などを実践。実際の救急現場をイメージし、仲間と協力し



チームで協力し、胸骨圧迫などの応急手当てに挑戦する高校生

ながら競技に取り組んだ。主催した西条市消防本部によると、高校生を対象にした応急手当の大会は県内初開催。市内5校の生徒24人が出場し、専用器具を使った胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用手順の理解や正確性を採点して順位を競った。

た。もし学校などで人が倒れたら、率先して対応したい」と話していた。愛媛大大学院医学系研究科の桧垣高史教授による講演もあり、学校での死亡事故は心臓性の突然死が一番多いことや早期の対処が生存率を高めることなどを学んだ。

(高橋圭太)

上位チームは次の通り。

- ①丹原高校保健委員選抜女子チーム(丹原高)
- ②T OYO(東予高)
- ③チームグー(西条農業高)

競技では、3人が交代しながら胸骨圧迫などを実施。声をかけて励ましあったり手拍子でリズムを確認したりして、チーム一丸となって課題に挑んだ。各校の生徒は事前に消防署員から講習を受けた上で練習を積んでおり、スムーズな応急措置ができていた。

丹原高2年の桑村のどかさん(17)は「事前に練習した通りにでき

防災教育の一環として、生徒が自主的・主体的に協働して、参加。非常変災時の自助・共助に役立つ知識・技術が身に付きました。